

令和2年度授業改善推進プラン

東村山市立

秋津東小学校 第5学年

教科等	資質・能力	現在の児童・生徒の実態や授業についての分析	授業改善のための具体的な方策 【主体的・対話的で深い学び】
国語	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 主語と述語の関係、尊敬語・謙譲語や助詞の使い方、文末の結び方の理解が曖昧で、日常の会話や作文にもわかりにくい文が見られることがある。 読解の力が弱く正しく文章を理解することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 主語と述語の関係や接続語の定着を図るため、東村山市国語ベーシックドリルを繰り返し行いながら定着を図る。また説明文の読み取りから言葉の使い方や文章の書き方を学習させ、書く作業を繰り返し行うことで文章を書く力を定着させる。 描写を基に捉えたり、要旨をまとめる学習を繰り返し行うことで、読解の能力向上を図る。
	思考力, 判断力, 表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 話し合い活動では、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 書いた文章を互いに評価し合う場面を設定したり、全体での話し合い活動を通して自分の意見を広げたり深めたりして「話す・聞く」の能力向上を図る。
	学びに向かう力, 人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 読書に対する関心は高いが、意欲においては個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書時間の確保をする。 並行読書を行う。
社会	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 学んだことへの理解が浅く、裏付けのある知識として定着が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料中の分からない事象を図書資料やインターネット検索などを使って細かく調べさせ、新聞作成でまとめたりすることで、知識と理解を深める。
	思考力, 判断力, 表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 収集した資料を理解し、自分の考えをもって表現することに対して苦手意識をもっている児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> グラフや表などの資料の読み取り方を重点的に指導する。自分の考えを発表させる場を多く設定する。
	学びに向かう力, 人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 学習した社会問題などの社会的事象に対して、自らの関わり方を考えようとするような当事者意識が薄い。 	<ul style="list-style-type: none"> 視聴覚教材や、コラム記事等を紹介することで、社会的事象と日常生活を結び付けられるようにする。
算数	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な計算の定着に個人差が大きく、新しい知識の理解力にも差が大きい。 習った時は解けても、時間の経過と共に定着率が下がっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習や宿題で計算ドリルや補充プリント、ベーシックドリルを活用し、反復練習の機会を増やし定着を図る。 定期的に復習内容を扱い、知識が蓄積されるようにする。
	思考力, 判断力, 表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 文章題の題意を正確に読み取って立式することができない児童が多い。 問題解決に向けて見通しを立てて解き進める力が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 数直線や図をかく経験を積み、正確に計算式を立てられるようにする。必要に応じ、具体物を通して問題場面をとらえさせる。 見当をつけてから解くよう習慣づける。 一人一人の課題解決の時間を確保する。
	学びに向かう力, 人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 1つ1つの学習に興味をもって取り組む反面、既習事項を活用して問題を解決することに苦手意識をもつ児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の初めに既習を確認し、前の学習とのつながりを意識させる。 ペアやグループで話し合い解決する経験を積ませる。
理科	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識の定着や器具の使い方の理解が不十分である。 実験や観察の技能に個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な場面で視聴覚教材を活用するとともに、実験や観察を多く実施し、器具の使い方の定着と観察の視点の明確化を図る。
	思考力, 判断力, 表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 比較実験や観察を行っても、自然の事物・現象の変化とその要因とを関係付けて考えることが難しい。 実験や観察の結果から、分かったことを自分の言葉で表現できない。 	<ul style="list-style-type: none"> 条件の違いや結果の違いを表やグラフに表し、視覚的に捉えられるようにする。また、見いだした問題を計画的に追及する活動を通して、科学的な思考力の育成を図る。
	学びに向かう力, 人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 理科的な事象に対する関心が高い児童もいるが、自身の身の回りの事象と関連付けて考えられない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容に関わる生活経験を想起させ、理科の学習が、身の周りの事象を理解することにつながることを実感させる。
音楽	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 曲想や曲の特徴に気付くことができる。楽譜を読んで演奏することやリコーダーを苦手とする児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽譜を読む学習を常時行ったり、学習したことを振り返りながら、一人一人に応じた個別指導の時間を設け、スモールステップで定着を図る。
	思考力, 判断力, 表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 楽曲から聴き取ったり感じ取ったことを生かしながら、思いや意図をもって表現することが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の思いやアイディアを認め合い、表現の高まりを教師が具体的に伝え、共有するようにしていく。

	学びに向かう力, 人間性等	・音楽に親しんだり、音楽活動をする楽しさを感じる児童が多く見られるが、音楽経験においては個人差がある。	・児童の発達段階や実態に合わせて教材を選択し、音楽への興味・関心を高めながら表現の幅を広げていく。
図工	知識及び技能	・丁寧に製作できるような技術が育っているが、個別指導も必要な児童もいるので配慮している。	・意欲的に取り組めるよう、いろいろ工夫しながら教材選びをしていく。
	思考力, 判断力, 表現力等	・発想力に富んでいる児童もいるが、自分なりの思いをうまく表現できない傾向が見られる。	・見通しをもって学習できるように、自分なりの計画を立てさせ、それぞれの発想の良さを認める。
	学びに向かう力, 人間性等	・多くの児童が意欲的に集中して取り組んでいる。	・課題の作業手順を示し、自分で判断して行動できるようにする。
家庭	知識及び技能	・裁縫の技能には個人差が大きい。 ・家事を手伝う経験が少ない児童が見られ、調理器具の使い方などの技能に個人差が見られる。	・繰り返し作業する場を設定し、経験を積ませる。 ・家庭と連携して、家事を手伝う機会を増やす。
	思考力, 判断力, 表現力等	・課題解決の経験が少ない。 ・学び合いの活動を多くすることにより、学習意欲の向上と理解を図っている。	・授業の構成を工夫し、考えを発表する場や課題を振り返る場を設ける。
	学びに向かう力, 人間性等	・家庭で自分の仕事の分担が無い児童が多い。	・家事への関心を高めさせ、家族の一員として家事に参加する意識を持たせるとともに、保護者への啓発を行っていく。
体育	知識及び技能	・体力のバランスに偏りがある。 ・器械運動や水泳運動など、領域によって得意不得意の差が大きい。	・定期的に体づくり運動を授業の冒頭で行い、様々な動きを経験させる。 ・児童の実態を把握し、段階に応じた基礎基本の習得を図る。
	思考力, 判断力, 表現力等	・目的意識をもって行う児童が少ない。 ・運動のコツを教えたり、アドバイスしたりする能力に個人差がある。	・児童に自分の課題をもたせ、場の工夫をすることで自力解決する力を育てる。 ・学び合い、教え合いを取り入れる。
	学びに向かう力, 人間性等	体を動かすことは好きな児童が多いが、向上心をもって運動する子とそうでない子の差がある。	・休み時間にも、積極的に体を動かそうとする態度を養う。 ・目標値をもって運動に取り組ませる。 ・達成感を味わうことができるようスモールステップで運動する場を設ける。
外国語	知識及び技能	・アルファベットの書き方の理解が不十分である。	・ゲームを活用して、アルファベットをなぞったり、書き写したりして、アルファベットに慣れ親しむ。
	思考力, 判断力, 表現力等	・設定されたコミュニケーションの目的や場面、状況を理解して活動に取り組んでいる児童が少ない。	・日常会話で活用できる簡単な表現の例を例示し、普段のコミュニケーションの中で活用するように促す。
	学びに向かう力, 人間性等	・どの児童も、歌やゲームなどの活動に積極的に取り組むことができる。 ・自分のことを自発的に伝えようとする意欲に個人差がある。	・簡単な表現を用いて、自分のことを紹介する活動を設定することで、自己表現の機会を増やす。
総合	知識及び技能	・パソコンの学習には高い関心があるが、操作の慣れについては個人差が大きい。	・計画的にパソコンを活用して学習する機会を設定する。
	思考力, 判断力, 表現力等	・主体的に追及する力は個人差が大きく、課題設定したり、表現したりするのが苦手な様子も見られる。	・個々に合わせた助言したりまとめ方の具体的な例示をしたりしながら学習を進めていく。 ・少人数での学習活動を通し、友達とのかかわりを深めながら、協同して活動できるようにする。
	学びに向かう力, 人間性等	全体的に学習しようとする意欲はあるが、学習内容の関連付けがうまくできず、学習に消極的な子もいるなど、個人差が大きい。	・既得の知識や生活経験をもとに、単元の課題を設定する機会を設け、児童の必要感に応じて課題を設定したり、ゲストティーチャーを活用したりするなど、個々に合わせて助言したりする。